

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

四万十町地域公共交通網形成計画の評価等結果（令和4年4月～令和5年3月）

	目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考	
基本方針1	目標1：公共交通空白地区に暮らす移動制約者を出現させない	令和3年度 公共交通空白地区内の世帯数：292世帯 内、独自の移動手段を持たない世帯：45世帯	対象となる地区を洗い出し、毎年将来に追跡していく。	鉄道駅、路線バス停留所（フリー乗降可能便については路線）から半径400mを超えた範囲を公共交通空白地区と設定し、その範囲で生活をする独自の移動手段を持たない世帯の数	令和4年度の公共交通空白地区内に暮らす世帯数及び、そのうち独自の移動手段を持たない世帯数は次のとおりである。 ① 世帯数：220世帯 ② 内、独自の移動手段を持たない世帯：26世帯	コミュニティバスの配置と再編を継続して行っていることから、着実に公共交通空白地域に暮らす世帯数と、その内独自の移動手段を持たない世帯数が減っている。しかし、実際は人口の減少によることも大いに影響しており、空白地区内において独自の移動手段を持たない世帯の割合は15.4%（令和3年度）から11.8%と数字ほど改善していないのが現状である。さらにスピード感を持って対応していくことが必要と改めて考える。	
	目標2：町内の鉄道、路線バス及びコミュニティバスの年間利用者数が前年実績を維持していく	令和3年度（2021年4月～2022年3月） 利用者数の合計：155,578人 ・鉄道：68,985人 ・路線バス：65,558人 ・コミュニティバス：21,035人	地区別意見交換会、ヒアリング調査、広報などでの啓発	各事業者から出されるデータを整理する。	令和4年度（2022年4月～2023年3月）の公共交通利用者数の合計は159,063人であった。全体的には3,485の増加となっているが、増加したのは鉄道利用者のみであり、路線バス（-1,509人）とコミュニティバス（-481人）はそれぞれ減少している。 ・鉄道：74,460人 ・路線バス：64,049人 ・コミュニティバス：20,554人	鉄道も含めた公共交通全体では増加しており、目標を達成している。しかし、路線バスとコミュニティバスが微減となっていることから、生活交通としての路線バスやコミュニティバス利用者の世代交代が進んでいないのではないかと推測される。今年度は地域公共交通計画策定のための調査事業の中で地区別意見交換や利用者ヒアリングなど、住民との対面時に啓発を重ねていく。	
基本方針2	目標1：路線バス（定期外）とコミュニティバスの利用者数を増やす	令和3年度（2020年10月～2021年9月） 利用者数の合計：43,085人 ・路線バス（定期外）：21,583人 ・コミュニティバス：21,502人	地区別意見交換会、ヒアリング調査、広報などでの啓発	町内を運行する路線バス（定期外）とコミュニティバスの年間利用者数の合計	令和4年度（補助年度 2021年10月～2022年9月）の路線バスとコミュニティバスの合計は42,933人となり、前年度から152人減少している。 ・路線バス（定期外）：21,902人 ・コミュニティバス：21,031人	主に町内の移動手段として機能している路線バスとコミュニティバスの利用者が減少傾向にあり、目標値を達成できなかった。結論にはさらに詳細な分析が必要であるが、人口減少と高齢化、そしてコロナ禍による外出控えの傾向、そしてバス利用者の世代交代が影響しているのではないかと推測される。今年度は地域公共交通計画策定のための調査事業の中で地区別意見交換や利用者ヒアリングなど、住民との対面時に啓発を重ねていく。	
	目標2：町内の乗務員数（バス・タクシー）が必要数を下回らない	①四万十交通（本社、大正営業所）の必要乗務員数（貸切事業は除く） ⇒ 必要乗務員数：29人 現在乗務員数：28人 ②町内のタクシー事業者の必要乗務員数 ⇒ 必要乗務員数：6人 現在乗務員数：5人	必要に応じて、町の求人情報にて乗務員を募集	各事業者へのヒアリングにより算出する。	① 四万十交通（本社、大正営業所）の貸切事業を除く乗務員数 ⇒ 現在乗務員数：26人/（必要乗務員数：26人） ② 町内のタクシー事業者の乗務員数 ⇒ 現在乗務員数：10人/（必要乗務員数：10人）	現状においては、必要乗務員数を維持している。コロナ禍が落ち着いており、今後は貸切バスや観光タクシーのニーズが増加する可能性が考えられるため、交通事業者との情報共有を行い、必要に応じて町の求人情報にて乗務員の募集を行うなど、臨機応変に取り組みをすすめる。	
基本方針3	目標1：ICカードですかを所持する人が前年度より10%を超えて増加する。	令和4年6月現在：209人 （内、ナイスエイジカード35人）	公共交通を通じたお出かけイベントの開催	（株）ですかからのデータを使用する。	令和5年5月現在で、町内在住者でICカードですかを所持する人は225人（内、ナイスエイジカード37人）となっている。	前年度のICカードですか所持者数が209人であるため、今年度は230人が目標値であるため、目標を達成していないこととなる。今年度の取り組みとして、昨年度実施したバス乗り方教室を拡大して、開催地区を増やしていくとともに、地区別意見交換などにて周知を図っていく。	
	目標2：鉄道の利用者数（定期外）を増やす	令和3年度（2021年4月～2022年3月）の窪川駅（定期外）利用者数の合計：16,790人	地区別意見交換会、ヒアリング調査、広報などでの啓発	J R 四国からのデータを使用する。	令和4年度（2022年4月～2023年3月）の窪川駅利用者数（定期外）は20,440人となり、前年度と比較して大幅に増加（3,650人）している。	前年度実績（16,790人）を超えており、目標を達成している。コロナ禍が落ち着いてきていることで、人々が外出傾向にあることがその理由であると考えられる。社会状況を鑑みつつにはなるが、来訪者には路線バスやコミュニティバスを二次交通として活用できる情報発信等に引き続き取り組んでいく。	

(記載に当たっての留意事項)

- ・ 本様式中、表題の「(〇年〇月～〇年〇月)」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「-」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。